

令和7年6月12日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

民生常任委員長 宮本 行雄

委員会調査報告書

本委員会の調査事件について調査を実施したので、智頭町議会会議規則第77条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和7年5月13日（火）～14日（水）

2. 場 所

- (1) 高知県幡多郡黒潮町入野5893番地 「黒潮町役場」
- (2) 高知県高岡郡四万十町琴平町16番17号 「四万十町役場」

3. 内 容

- (1) 木造住宅耐震補助事業について
- (2) 農業マッチングシステム「しまんとJOIN」について

4. 派遣委員

仲井 莖 議員、西尾 寿樹 議員、岡田 光弘 議員、岩本 富美男 議員、
安道 泰治 議員

5. 所感等

(1) 高知県黒潮町

黒潮町は四国の南西部に位置し、平成18年に「佐賀町」と「大方町」が合併して誕生した町で、面積188km²、人口9,813人、高齢化率47%、延長35キロの美しい海岸線を有する町である。

木造耐震診断への支援として耐震診断士派遣事業、耐震改修設計費補助事業、耐震改修工事費補助事業が展開されているが、特に耐震改修設計費補助事業は上限30万円まで10/10補助、耐震改修工事費補助事業は上限125万円まで10/10補助となっており、多くの住民がこの補助制度の限度内で実施していることから、1,265件もの耐震改修に結びついているとのことで、本町で進める耐震診断が最終的に耐震改修にまでつながり、事業の初期の目的

を達成するために参考となる事例であると思う。

黒潮町南海トラフ地震・津波防災計画では、町職員約190名がすべて地域担当制が決められており、14分団の消防団290名（実質80%）で、防災業務を行っている。防災文明（ハード事業）と防災文化の創造（ソフト事業）をバランスよく付き合いまちづくりを推進していると感じた。

災害はいつかはやって来ることから「あきらめない。揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ。」の合言葉に、犠牲者ゼロを願う町づくりの参考になった。

（２）高知県四万十町

四万十町は平成18年に旧窪川町、大正町、十和村が合併して誕生している。高知県の中西部に位置し、高知市から車で約1時間、人口14,762人、642.28㎢の広大な面積を有し、「仁井田米」が「特A」となり、生姜が生産量日本一になるなど農業が盛んな町でもある。

しまんとJOIN（農業マッチングシステム）は、農業の繁忙期の人手不足を解消するために定住希望・検討者などに紹介するシステムである。現在12業者が登録しており、通年雇用と、繁忙期雇用があり、農業では生姜の一大産地でもあることから、繁忙期には相当な労働力を必要としていることが伺えた。

四万十町は町全体の方向として、自治体DXに取り組んでおり、それを高齢者にも浸透させるために全町で44名のスマホサポーターを育成認定して、シニア向けのスマホ講座を展開していた。また、DX推進を活かし、スマート定住対策協議会を立ち上げてドローンを使った町のプロモーションを行い、若者の定住促進に力を入れて成果も上げていることから、本町のDX推進の今後の取り組みにも大いに参考となった。

本町でも複業協同組合と連携して、農業への利用ができるよう進めていくべき事業と考える。